

案内コース& 東京港のご紹介

東京港は日々大きく変化しています。首都圏における物資の流通をさらに円滑なものにするため、ふ頭や倉庫、橋や道路を整備して、総合的な機能の充実を図っています。また、多くの皆様が親しめる憩いの場、交流の場、あるいは、新しい都市づくりの場として、ふ頭の再開発や広大な埋立地の開発を進めています。

このように、みなさんの生活と深く関わる東京港の役割を多くの方に知っていただくため、視察船「新東京丸」を運航しています。

5 大井コンテナふ頭

首都圏における国際物流の中心となる日本屈指のコンテナふ頭。大型コンテナ船が同時に7隻つづことができます。このふ頭は、船会社が専用的にふ頭を借りており、世界各地の代表的な港と定期航路で結ばれています。



6 青海コンテナふ頭

大型コンテナ船5隻が同時に接岸できる機能を持つコンテナふ頭で、北側の韓国や台湾の船会社が専用的に借受けているふ頭と南側の公共岸壁のふ頭があります。



4 品川ふ頭

品川ふ頭のうち、北側(芝浦側)区画は、北海道と東京港の定期航路の基地です。RO/RO船(※)が接岸し、主に新聞巻取り紙、自動車などを取り扱っています。南側(大井側)は、わが国で初めてオープンしたコンテナ埠頭で、主に中国・韓国航路などに利用されています。

※RO/RO船・・・
ロールオン・ロールオフ船の略称。
本船に備えられたランプウェイ(可動橋)を使い、トラックやシャシーでそのまま積み込むことができる船。



3 芝浦ふ頭

国内貨物の雑貨ふ頭として利用されており、主な取扱貨物は、セメント、紙類などです。



2 日の出ふ頭

大正14年に完成した東京港で最も古いふ頭。現在は主に、海上バス、レストラン船の発着地として利用されています。

1 竹芝ふ頭

伊豆・小笠原諸島航路の船やレストラン船の発着地として利用されています。

13 晴海ふ頭

東京の海の玄関として、国内外の客船が寄港しています。



12 臨海副都心

東京都における7番目の副都心として、面積442ヘクタールの埋立地に職・住・学・遊の機能が連携する複合的なまちづくりを進めています。台場・青海・有明南・有明北の4つの地区に分け、それぞれの地区に応じた土地利用を図っています。現在、港湾局では、東京をアジアのヘッドクォーターへと進化させるため臨海副都心をMICE(※)・国際観光の一大拠点へと発展させるよう取り組んでいます。

※MICE・・・
多くの集客交流が見込まれる国際会議や展示会、イベント等の総称。

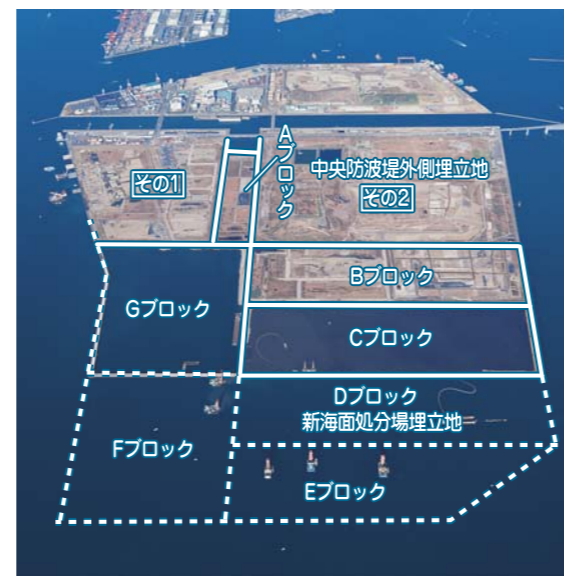


7 廃棄物処分場

- ・中央防波堤外側埋立地
- ・新海面処分場埋立地

中央防波堤外側埋立地の「その1(西側)」は、河川や運河などから発生する浚渫土や建設発生土などで埋め立てられており、また、「その2(東側)」はゴミの焼却灰や不燃ゴミ、上下水道スラッジ(汚泥を乾燥させた砂)などを埋め立ててきました。ところが、埋め立てられる残りの容量もわずかとなってきたため、平成8年8月から、これより沖合いの海域に新海面処分場(約480ha)の整備を開始しました。この新海面処分場は、東京港内に確保できる最後の処分場であることから、廃棄物等のより一層の減量化・資源化を図り、一日でも長く使用していく必要があります。

なお、竣工した「その1(西側)」の一部においては、近年増加する貨物に対応するため、大規模なコンテナふ頭などの建設を進めています。



8 東京ゲートブリッジ

中央防波堤外側埋立地と江東区若洲を結ぶ橋です。主要幹線道路へのアクセス向上による物流の効率化及び東京港内の交通渋滞の緩和に寄与しています。



9 海の森予定地

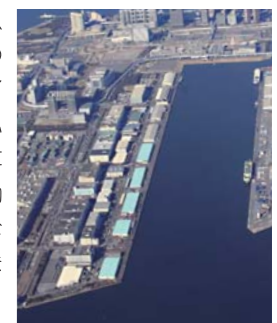
東京港に浮かぶ、ゴミと建設発生土で埋め立てられた「ゴミの山」に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせるプロジェクトです。

※現在整備中のため、通常は立入ることができません。



11 お台場ライナーふ頭

コンテナ船以外の外国からの貨物を扱うライナー(定期船)ふ頭。鉄鋼、自動車部品、紙類、果物など、多種多様な貨物を扱っています。



10 フェリーふ頭

昭和49年に開設されたフェリーふ頭は、東京港と四国・九州の港を結ぶ拠点となっており、モーダルシフト(※)の受け皿として重要な役割を担っています。

※モーダルシフト・・・
自動車による貨物輸送を環境負荷の少ない船舶または鉄道輸送に切り換えること。

